

社会科学系院生による 量的・質的研究法 ビギナー講習会



ダイジェストでお届け！

第2部 質的研究のいろは

講師：ラーニング・アドバイザー 人間総合科学研究科 SAKAI

1/29(木)に開催された「社会科学系院生による量的・質的研究法ビギナー講習会」第2部の内容を講師の坂井さんにダイジェストでまとめてもらいました。研究方法についての専門的な内容ではなく、実際に質的手法を用いながら研究を行うユーザーの立場から、これから質的研究をはじめる皆さんに対して基本的なことをお話してくれました。



今回「第一部 量的研究のいろは」を担当しました坂井です。今回のセミナーは、(1) 本セミナーの開催趣旨、(2) 質的研究では何を明らかにするのか、(3) インタビューの基本的注意点、(4) インタビューで陥りやすい点、という構成になっていました。本稿では、(2) と (4) について報告します。

まず、(2) についてです。一例として現象を生成・維持・変容させている過程の部分を明らかにするために、質的なアプローチが取られるということをお話ししました。この過程の部分というのは、量的研究では測ることの難しい部分であると言われています。「子どもの数学嫌い」という現象を例に考えてみましょう。量的研究では、質問紙調査を行い、A 中学校の生徒の約3割が数学嫌いであることが分かったとします。しかし、質問紙調査では、数学を嫌う見方がどのようにして形成されたのかというプロセスを明らかにすることは難しく、表面的な理解にとどまることが多いと考えられます。一方で、質的研究の場合だと、生徒にインタビューを行い、「どのようにして『数学嫌い』になったのか」「なぜ『数学が嫌い』という状態が継続しつづけているのか」について問うていくことで、「数学嫌い」という現象の中身、すなわちプロセスを明らかにすることができます。

次に、(4) についてです。社会科学系の質的研究では、目的に応じて、さまざまなデータ収集方法が取られます。今回は、メジャーな手法のひとつであり、卒論の質的研究でもよく用いられる「インタビュー」を取り上げ、お話をしました。インタビューの陥りやすい点として、「自分の仮説についてのみ聞いてくる」「回答を誘導・歪めてしまう」ということが考えられます。ここでは、特に前者について述べます。

質的研究における一般的なインタビューでは、ぼんやりとした仮説をもとに、質問する事からについて大まかな計画をたて、データ収集に臨みます。その際、注意してほしいのが、「自分の仮説についてのみ聞いてきてしまう」ということです。自分の仮説をもとに、「それしかない」と思い込んでインタビューを進めていくのではなく、もう少し話を広げてみてください。自身の研究の本題に関連



しそうな、しかし自分がインタビューを行う前までは想定していなかった、本題の周辺の事からについても話を聞いてくるのが大切です。そうすることで、調査者がインタビューを行う前までは想定していなかったプロセスが明らかになり、「そこって、そうなのなんだ！」という発見が得られます。

今回のセミナーは「ビギナー」を対象としていましたので、あえて難しい話や分析のやり方については触れず、質的研究の基礎的・基本的な点についてお伝えしました。皆さんが今後、研究手法について学んでいくにあたって、本セミナーがその足がかりとなっていれば幸いです。最後に、初学者向けのおススメの文献を紹介したいと思います。附属図書館にも所蔵されておりますので、興味のある方はぜひ手にとってみてください。

- ① 関口靖広 (2013). 教育研究のための質的研究法講座 北大路書房 371.8-Se27 中央図書館
- ② 教育研究のための質的研究法講座 <http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~ysekigch/qualmtd.html>
↑①のもとになった Web ページ。内容もわかりやすく、Web からすぐ見られるのでおススメです。

参加者の声！

ラーニングアドバイザー AKAGI

調査法セミナーの第二部として開催された、質的研究法セミナーですが、第一部から参加して下さった方もいました。また、今後質的研究を始めたいという学群生や院生も多かったです。途中の質問では、以下のようにインタビューの具体的な方法についての質問が寄せられました。

Q1: インタビューをするときに、数値を使って質問をすることはありますか？

A1: 数値を使った質問をすることもあるが、言語データの内容で判断することが多いです。

Q2: 答えにくい質問に対してどう答えを引き出していけばよいでしょうか。

A2: 事前に質問項目の確認を依頼し、OK をもらった上で当日答えてもらうなど、様々な工夫が必要だといえます。

また、アンケートからは、質的研究の基本的な知識を学べた、分かりやすかったと好評でした。一方で、もっと経験に基づいた話を聞きたかったという意見も見受けられました。今回は 1 時間という短い時間で基礎の話がメインでしたが、今後応用編も開催できるように、LA 一同尽力したいと思います。